

廣嚴大通禪師譚語集

本文中の「相共登于戸陰山」の「戸陰山」は戸隠山と訓むことはできるが、この戸陰山が戸隠山顕光寺かは不明。世上、法燈国師の母も戸隠（蔵）奥院に参詣したとされているが、参詣した戸隠（蔵）は、母が筑摩郡神林縣の人であることもあつて、顕光寺の末寺である筑摩郡仁熊村の富蔵山岩殿寺と考えられ、本文献の場合も長哲が筑摩郡の人であることから、戸陰山は岩殿寺と考えられる余地はある。

廣嚴院匠山長哲の没年は、文末に行年天正十年（1582年）とあるので仮に天正十年（1582年）の文書とする。

〔廣嚴大通禪師譚語集〕

四
○甲斐

匠山哲禪師伝 廣現前住第七祖

禪師諱長哲、字匠山、嗣法箇學、信州筑摩郡人、姓村上氏、

（光力）

義照支裔也、幼而父歿、長母畜養、年十有三、伴母詣父墳墓、備禮投地、涕淚問母云、父在墳中耶、母云、只留遺骸、不知魂靈去所、云還有知人麼、母云、曾聞佛知六趣浮沈、云

與麼我爲父出家、成佛道知眞靈去所、母爲希有子言、相共登于戸陰山、剃髮緇衣、深入圓頓一乘法門、忘二時飲食、一十三祀、異日有遊歷志、遍訪山陰山陽之諸善知識、於教外宗大有懷疑、入于羽州羽黒山窟内、修禪三年、麋鹿擁後馴伏、庶民感動殊勝、出山徑、到於常陽戸崎邑（中略）行年六十有五歲寂、天正壬午孟冬初五日也、

（後略）

註 『大日本史料』11編3冊309頁より。